



元気っ子

No.266 ながさわ保育園

園長 中瀬 弦 偉

9月は台風15号が千葉県をはじめ各地に甚大な被害をもたらしました。ここ三重県でも四日市や東員町の方では川が氾濫してかなりの被害が出ました。ながさわ保育園周辺ではそういった川の氾濫はありませんが、さすがにあれだけの豪雨が何時間も続くと怖いものがありました。

台風はある程度仕方がないにしても、温暖化によるゲリラ豪雨などはこれまで人間が経済優先の生活を送ってきた代償に他なりません。国連温暖化対策サミットにおけるスウェーデンの16歳の環境活動家グレタ・トゥーンベリさんの演説の怒りは決して各国首脳陣だけに向けられた言葉ではありません。私も含めた我々大人たち全てに向けられた怒りだと捉えなくてはいけないと思います。この「子どもたちの未来の夢を裏切っている」という怒りが、もし愛する我が子から発せられた言葉だとしたら・・・そう考えればすぐにでも行動に移せるのではないのでしょうか。一人一人のちからは微々たるものかもしれませんが、その集合体は大きなちからになります。電気の節約、水の節約、ゴミを少しでも減らす努力をする、アイドリングストップ。こういった一人一人の決意でしか、この環境破壊、すなわち人類の滅亡を止める術はないのだと思います。子どもたちの未来のためにもまずは「自分ができること」を考えてみて下さい。

9月17日18日と東京にある保育園の施設見学職員3名と行ってきました。見学の大きな目的はもちろん「保育の質の向上」ではあるのですが、主に見せて頂いたのは0歳、1歳の保育の現場です。

ながさわ保育園では平成14年から異年齢保育をスタートさせていますが、当園での異年齢保育は完全な縦割りの異年齢保育であり、その内容をそろそろ見直さないといけない時期にきているのではないかと感じています。この見学をさせて頂いた保育園でも異年齢保育は実践されているのですが、ここの異年齢保育は「結果として」異年齢になった保育であり、元々のスタート、一番大切にされているのは「発達の習熟度別」保育になります。ここがポイントであり、我々が見直さないといけない部分になるかと思っています。どうしても我々は年齢による習熟度の刷り込みというものが頭の中にあって、「何歳だからこれできないといけない」と思いがちですが、子どもたちの発達はそれぞれであり、一人一人の子どもたちの発達段階を捉えながら、しっかりと向き合っていくことがこれからの保育には大切になってきます。子どもの権利を保障するためにも、年齢ごとに区切るのではなく、大きく幅を持って子どもの発達を見つめるゆとりが大事になってくるのです。

段階的に様々な面で見直しを計っていこうと考えていますが、今回、施設見学では0歳1歳の保育現場を見学させて頂き、まずはこの乳児の現場に「発達の習熟度別」保育を導入していければと考えています。少しずつではありますが、保育の質の向上を目指して、今まで以上に子どもの最善の利益を求めた保育実践を行っていけるよう職員一同取り組んで参ります。



10月からはよいよ幼児保育の無償化が始まります。お便りを配らせて頂きましたが、また保護者の皆様にはご協力頂くこととなります。どうぞよろしくお願い致します。